

B—36 上杉謙信の衣服の裁縫について

東京産経学園 堀越 すみ

1. 近世初期の戦国大名の衣服は、古くから伝統の公家の礼服、武家の礼服、日常服、武装に属する衣服などがある。中に南蛮・明・朝鮮の影響のものも見られ、それ自身創作されたものもあって、時代を語り、着用者の生活態度を語る。これらが近代の和服の基をなすものであるから、特にその裁縫を明らかにして、現代及び将来の和裁を考える上の資料とする。

2. 以上の目的に最もよい資料となるのが、上杉謙信の衣服であって、六十余点にわたる衣服の大部分を詳細に調査した。

3. 目的に記したように、広い範囲にわたる裁縫を明らかにし、その考察を古代・中世を通じて試みた。

(昭和37年2月当学会関東支部会の例会にて「謙信・秀吉・家康の衣類について」研究発表をした。その後謙信の衣類の調査が進んだので、その成果を発表する)